イエス様が生まれたことを記念する降誕日(クリスマス)から、先週金曜日の顕現日まで、私たちはイエス様の誕生の出来事が、大きく広がったことを学びました。イエス様はベツレヘムというユダヤの片田舎にユダヤ人のひとりとして生まれたのですが、それが世界の救い主であったということを、外国からの占星術の学者がやってくることで表していました。そして今日は、イエス様がヨルダン川で洗礼を受けられたことを記念する礼拝を行っています。

人間には、その生涯を決定付けるような、節目の出来事がいろいろあります。学校への入学式とか、就職した入社式、また仕事を変えること、結婚すること、いろんな節目になる出来事があります。今から200年前、イエス様の時代には、寿命は50歳くらいだったろうと言われています。そして、ルカの福音書によると、イエス様が洗礼を受けて、宣教を始められたときはおよそ30歳であった、ということです。

その時までは、ナザレで家業の大工の仕事をしていたのですが、洗礼を受けることをきっかけにして、 荒野で40日の誘惑を受けた後に、伝道活動をされることになります。イエス様の洗礼というのは、そ んなイエス様の生涯の節目であったことは、確かだろうと思います。

今日の福音書の16節17節で、「イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がられた。そのとき、 天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になっ た。そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。」とい う表現が出てきます。

この言葉を根拠にして、『イエス様は元々は人間の一人だったが、神様の心に適う立派な方だったので、 聖霊の力によって、特別に神様の子ども「養子になったんだ」』という説明をする人たちが出てきました。この時から神様の力を受けて、各地で伝道し、いろんな奇跡を行うこともできるようになった、というわけです。

しかし、この考えは異端として退けられました。というのは、イエス様は、人類全体を救うために神様から遣わされた救い主、神様そのものなんだ。人類の罪を帳消しにするための働きは、不完全な人間にできるはずがない。イエス様は、30歳で洗礼を受けた時、神様の子どもになったのでもなければ、ベツレヘムで生まれた時に、神の子になったわけでもない。すべてのものが造られる前から、神様のもとにおられた方なんだ。その方が、人間の子として30歳まで育ったが、今、ついに神様の仕事を始められたんだ、というのがこの洗礼の時、聖霊と天からの父なる神様の声で、示されている、ということなのです。

さて、イエス様がヨハネから洗礼を受ける前に、ヨハネはそれを、思いとどまらせようとします。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」という発言です。ヨハネは、悔い改めのための洗礼を行っていました。今までの罪を悔やんで、正しい生き方に方向転換するように命じるためでした。

しかし、それだったら、罪のないイエス様は、わざわざ悔い改めの洗礼など受ける必要がないはずです。 ところが、イエス様も洗礼を受けられたのです。

人類を救うために、イエス様はレスキュー隊になったんだ、と私は説明しています。イエス様は、神様と人間の間にある、断絶と言うか、両者を隔てる、大きな、流れの速い川に、今飛び込まれた、ということです。人間は、神様から離れて、川の中洲に取り残されてしまっているのです。水かさは増すばかりで、私たちはこのままの生活を続けていたのなら、孤独に溺れ死ぬのを待つばかりです。

そんな状態の人間を救うために、安全な岸の側にいる神様が、中洲の人々のために、救い主、レスキュー隊を派遣して、30歳のイエス様が、ロープを抱えて、川に飛び込んでくださった。それがイエス様の洗礼です。

それでは、私たちの洗礼というのはどういうことでしょうか。 パウロはローマの信徒への手紙6章3節~5節で、洗礼について次のように言っています。

「それともあなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスに結ばれるために洗礼を受けたわたしたちが皆、またその死にあずかるために洗礼を受けたことを。わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるならば、その復活の姿にもあやかれるでしょう。」

死とか復活という表現があって、ちょっと難しいのですが、大切なことは「キリスト・イエスにあずかる」「結びつく」「一体となる」ということ。イエス様の姿、生き方にあずかる。イエス様のように成長する。そうなりたいために洗礼を受ける、ということではないでしょうか。

人類を救うために、川に飛び込んだイエス様は、ご自身が先ず復活して天国へ行く道を切り開いてくださったのです。そして、私たちは、川の中で私たちを待っているイエス様と一緒になって、イエス様に抱えられて安全な岸に着くことが私たちの救いになるのです。

そして、大切なことは、私たちがイエス様と一体になる、とは、イエス様の生き方を、自分の生き方にすること。そうなりたいと、私たちは洗礼を受け、また、聖餐式で、キリストの肉と血をいただいて、ますますキリストに似るものになろう、そして聖餐を通しての恵み、神様の力によってそうなれる、という確信を持つことが、私たちのこれから、天国の岸までの信仰生活だ、ということでしょう。